

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和3年度

市町村名	蕨市					
提案事業名	～外国人が住みやすく、訪れたいまち蕨～ 防災まちづくり事業					
事業期間	令和2年度～令和2年度					
成果指標	(成果を検証する指標) ①市の施策「国際交流・多文化共生の推進」に対する満足度(1～6段階評価の平均値) ②災害発生時の情報取得方法で防災行政無線(今回整備するメール等含む)をあげた市民の割合(今回整備するメールについては「利用したい」との回答も含む)					
	(成果検証の具体的な方法) 毎年実施している市民意識調査で把握					
	(成果の目標値に対する実績)				達成度	①C ②A
	従前値 (R1年8月時点)	①2.93 ②26.1%	目標値 (R3年8月時点)	①3.00 ②30.0%	実績値 (R3年12月時点)	①2.89 ②46.8%
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項		市ホームページで公表				

【事業効果の整理・原因分析】

令和2年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 外国語対応の登録制防災メール整備事業	○	防災行政無線の内容を多言語化(英語、中国語、韓国語、ベトナム語、タガログ語、日本語)した登録制メール配信サービスの導入により、外国人住民等が、災害時に正確かつ効果的に情報を取得できる体制の整備を図ることができた。
② 外国語対応の住居表示街区案内板作製事業	○	蕨駅東西口の住居表示案内板をリニューアルし、緊急避難所などの地図情報等を多言語化するとともに、QRコードを活用して外国人向けの防災情報を含む市ホームページへの誘導を行うなど、情報取得に係る利便性の向上及び強化を図ることができた。
③ 外国人救急対応体制整備事業	○	外国人からの119通報や現場対応の際に活用する多言語通訳サービス(18言語対応)の導入により、緊急通報時の適切な指示や情報把握、迅速な救急活動への展開など、多言語対応により救急体制の強化を図ることができた。
④ 外国人住民意識調査実施事業	○	蕨市多文化共生指針の策定にあたり、外国人住民が抱える防災など生活面に関する課題や多文化共生に対する意識を把握し、指針策定の基礎資料とすることができた。現在、抽出した課題等を踏まえた施策の展開を図る多文化共生指針を策定中(令和3年度中に策定予定)。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	在留外国人の増加に伴い、災害時等における外国人に対する情報提供等の重要性が増しているなか、多文化共生の視点を取り入れた施策の展開を通じて、本市が進める安全安心なまちづくりを前進させることができた。また、こうした取組を一層推進していくための多文化共生指針の基礎資料となる外国人意識調査を実施し、抽出した課題等を踏まえた指針策定につなげることができた。
実施事業について 成果が不十分である点	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、従前実施してきた国際交流事業が軒並み中止となったことや、公民館等で開催している日本語ボランティア教室等の開催が困難な状況となったことなどから、全体として十分な事業成果を発揮することができなかった。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	令和2年度補助事業の更なる成果に向け、SNS等を活用した各事業の積極的な周知・啓発を図るとともに、令和3年度中に策定する多文化共生指針等も踏まえ、各分野での取組の推進を通じて施策の満足度の向上を図っていく。

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(○・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果○」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない